

弱ヲ試ムルニ臨ミ平等ニ配當センガ爲メニ鉛板ヲ以テ之ヲ挾ムヲ常
 トス予其方法ノ正シカラサルヲ知ル故ニ予ハ常ニ鉛板ノ代リニ凝結
 物料ヲ用ヰシガ其結果ニ於テ著シキ差違ヲ生ズ四吋立方ノ石ヲ取テ
 鉛板ニ挾ミ之ヲ壓下スレバ其強サハ凝結物料ヲ用ヰタルモノ、七分
 三乃至五分三ニ過キズ其碎裂シタル形ハ鉛板ヲ用ヰシモノニ於テハ
 殆ンド四拾五度ノ傾斜ヲ有スル錐形トナリ凝結物料ヲ用ヰシモノニ
 於テハ殆ンド垂直ノ錐形ヲナス云々 (Industries 9th Sept 1887) 是ニ因テ之
 ナ觀レハ當今實地ニ石臺ニ鐵材ヲ置ク時ニ鉛板ヲ挿ムノ法ハ甚タ良
 法ナラザルベシ(石綯)

○陶管ノ強弱 此頃岩田武夫君ノ依頼ニ應シ常滑産陶管ノ強弱ヲ
 試驗シタルニ左ノ如シ

種類	長平均外	徑	内徑	厚	壹箇ノ	管中水壓力ニ接	壹個ノ價	雜記
					重量	シ破碎シタル度持込共		

乙	甲
前同	五壹貳
四寸三寸	分寸尺
寸	八寸
見附中央共九	五寸五分
五	分見附ノ部八
分	又ハ三分
九	四十
磅	平均
平均方壹吋	平方壹吋ニ
付八十磅	付五磅ヨリ
凡ソ十	最大十七磅
四錢	十六錢
特別注文ヲ以テ燒	通例市中ノ下水ニ
タルモノニシテ藥	用ナル類ニシテ藥
ノ掛リ方宜敷厚モ	ノ掛リ方不良厚不
稍平ヲナリ	同ナリ

以上ノ結果ヲ以テ考フレバ甲種ノ陶管ハ強弱不同ナルガ故ニ到底水道用ニ耐ヘズ乙種ナレバ水頭百八十四呎ニ耐ユベシト雖モ管徑狹小ナレバ大水道ニ用ユベカラズ故ニ同君此種類ノ大ナルモノヲ以テ神奈川縣下曾屋村飲用水道ニ用ユルコトニ決シタリ此外繼手ニ用ユベキ種々ノ粘凝物料ノ試験ヲ施シタルニ堅實密着両ラ全キモノハ松脂重量拾分白蠟同壹分ノ比例ノ品ナリ尙詳細ハ他日岩田君ヨリ報告スル所アルベシ(石絢)

○必用數目表正誤 會誌第七十號附錄同表八丁目七段ノ數ハ4ノ一字ヲ脱セリ即チ左ノ如ク改ムベシ